

# 二種類の「学び方の手引」と 学習記録で学び方を指導

## 茨城県 常陸太田市立北中学校

常陸太田市立北中学校は、「授業用」と「家庭学習用」の二種類の「学び方の手引」を生徒に配布。更に、毎日の家庭学習や定期テスト学習の内容を生徒が振り返り、教師がチェック・アドバイスするシートを運用することで、すべての学力層を丁寧に見取り、学習習慣の定着を図っている。

### 学校と生徒の様子、課題

#### 学び合いを通じて意欲を高め 家庭学習を充実させたい

のどかな農村地帯に位置する北中学校は、1学年1学級、全校生徒95人の小規模校だ。保護者には同校の出身者も多く、三世代の同居率が高いという。2008年度には校区内の二つの小学校が統合したため、小学校時代に同じ教室で学んだ子どもがそのまま同校に進学してくる。

鴨志田悟校長は、そうした環境にある同校の特徴と課題を次のように話す。

「本校は、生徒や家庭の様子を十分に把握

した上で、きめ細かく指導できる環境にあります。生徒同士、教師と生徒の信頼関係も築かれていて、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいます。一方で、生徒は小学校時代から同じ集団で学び続けているため、人間関係が固定化され、幅広い視野を持ちにくかったり、刺激を受けにくかったりするのが課題です」

そこで同校では、地元で開かれるイベントでのボランティア活動を推奨し、職場体験学習や福祉体験学習を3年間で実施するなど、学校外の人たちと触れ合う機会を出来るだけ多く持たせ、視野を広げさせようとしている。学力面では、全体の平均を見れば問題はな

いものの、授業についていけずに50分間ずっと我慢しているような生徒がいる。この課題解決のため、ここ数年は、すべての生徒が意欲的に学びに向かえるような授業の在り方を、家庭学習指導の在り方と併せて模索してきた。

鴨志田校長が赴任した09年度からは、全教科において、学級全体の学び合いと小グループの学び合いを組み合わせて授業を展開している。小グループの学び合いは4人のグループ活動が中心で、東京大の佐藤学教授が提唱する「学びの共同体」を実践する。鴨志田校長は、「学び合いを取り入れた授業の充実が、家庭学習にも良い影響を及ぼすのではないか

### School Data

◎ 1947 (昭和22) 年開校。  
2003年度、文部科学省の学力向上フロンティア事業推進校に指定。国指定重要文化財やそば栽培など、校区内の名所旧跡や特産物を生かした体験学習にも力を注ぐ。



校長◎ 鴨志田悟先生

生徒数◎ 95人 学級数◎ 4学級 (うち特別支援学級1)

所在地◎ 〒313-0105 茨城県常陸太田市市利員町1969

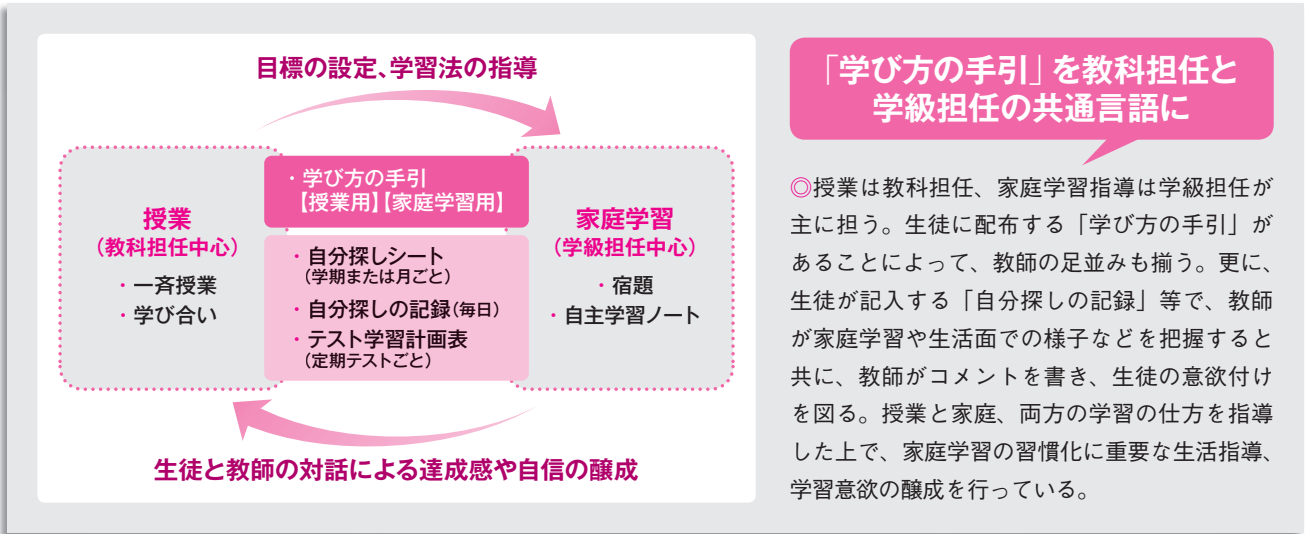
TEL◎ 0294-76-2109

URL◎ <http://edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/school/kitajh/index.html>

「学力保障」のために、移行期間の今できること

第4回

## 意欲を引き出す「家庭学習」指導



### 「学び方の手引」を教科担任と学級担任の共通言語に

◎授業は教科担任、家庭学習指導は学級担任が主に担う。生徒に配布する「学び方の手引」があることによって、教師の足並みも揃う。更に、生徒が記入する「自分探しの記録」等で、教師が家庭学習や生活面での様子などを把握すると共に、教師がコメントを書き、生徒の意欲付けを図る。授業と家庭、両方の学習の仕方を指導した上で、家庭学習の習慣化に重要な生活指導、学習意欲の醸成を行っている。

と期待しています」と話す。

「学び合いを通じて、『学ぶことは面白い』と実感した生徒に、家庭での適切な学習の仕方を指導すれば、家でも自ら進んで学びに向かうようになるでしょう。家で一人で学習していて分からないことがあれば、学校で友だちに質問したりするでしょう。そこでまた、学び合う場面が生まれるのです」

こうした質の高い指導を実現するために、全教師を先進校へ研修に派遣したり、校内でも月1、2回の頻度で授業研究を行っている。

### 取り組みのポイント

◎「学び方の手引」を作成

### 学習の仕方を教え 中1ギャップの解消を図る

同校が家庭学習指導の強化に本格的に着手したのは、05年度のこと。まず「学び方の手引【授業用】」「学び方の手引【家庭学習用】」という冊子のセットを作成し、生徒に配布した。「目的は、中1ギャップを解消することにあります」と、1学年担任の浅野勝好先生は話す。

「教科担任制への戸惑いが、学習意欲や授業の理解度を低下させる大きな要因になっていたため、『学び方の手引』の授業用を作成しました(P.16図1)。また、授業と家庭学習は別々のものではありません。教科ごとの



常陸太田市立北中学校校長  
**鴨志田 悟** Kamoshida Satoru  
「学び合いによって、一人ひとりが主人公となる学校づくりを通して、夢に向かって挑戦する生徒を育てたい」



常陸太田市立北中学校  
**川崎 博文** Kawasaki Hirubumi  
教務主任、社会科担当。「何事にも前向きに努力し、力を最大限に発揮できる生徒を育てたい」



常陸太田市立北中学校  
**浅野 勝好** Asano Katsuyoshi  
1学年担任、技術科担当。「生徒一人ひとりが夢や目標を実現できるように、出来る限りの支援をしていきたい」

授業の受け方が分かれば、授業の内容も理解でき、学ぶ喜びを味わえます。それは、家庭学習に意欲的に取り組むきっかけとなります。家庭学習の仕方が分かり、生徒一人ひとりの家庭学習が充実すれば、授業への意欲が更に高まり、理解がもっと深まるのではないかと考え、家庭学習用の『学び方の手引』(P.16図1)も作成しました」

「授業用」はB5判の20ページ程度で、これからの社会で求められる学習法や、教科学習の土台となる生活習慣について、更に9教科それぞれの授業の進め方、授業で求められる姿勢、ノートの取り方などを細かく記している。

「家庭学習用」は、サイズとページ数は「授業用」と同じであり、内容は家庭学習の「ね

らい」と「仕方」の2部構成とした。家庭学習の仕方は、学力下位層の生徒にも分かりやすいように、計画の立て方、予習・復習の方法、定期テスト前の学習の方法を概説。更に教科ごとに、家庭学習の進め方と家庭学習用ノートの書き方を具体的に示している。

また、学力上位層の生徒を念頭に、「発展的な学習に取り組むときのヒント」を教科ごとに説明している。

◎「自分探しシート」と「自分探しの記録」  
**毎日の学習記録と日記を提出させ、意欲を育む**

「学び方の手引」を配布したものの、すべての生徒の家庭学習時間が思うように伸びたわけではなかった。

教師は、生徒が「学び方の手引」に書かれている学習方法を参考にしながら、自分で家庭学習の計画を立て、意欲的に取り組むようになることを期待していた。ところが、一部の学力上位層の生徒は期待通りに学習するようになったものの、そもそも家で勉強する習慣のない生徒が、「学び方の手引」だけで家庭学習の態度を変えることはなかった。意欲面での働き掛けが十分でなかった点に加え、今日の家庭学習を具体的にどのように取り組めば良いのか、更に詳しいアドバイスが必要だったからだ。

同校は「『学び方の手引』とは別の働きか

図1 「学び方の手引」授業用と家庭学習用 英語の例

### 英語科の学習の進め方

「知識を聞いて分らない」、「自由な英語で話せるようになりたい」という夢があると思います。A先生の先生の英語が聞き取れた時の喜び、そして自分が言おうとしたことが学校で習った英語を使って通じたときの満足感は何とも書けない気分でしょう。

英語は、世界共通語で、「共通」の言葉です。自分の考えや気持ちを相手に伝え、相手の考えや気持ちを理解する手続なのです。そして外国にも目を向け視野を広げていくことが、これからの私たちに大切なことです。そのために、中学校で外国語（英語）を学ぶのです。英語学習では、声を出していろいろな表現をたくさん覚え、実際に使えるようになることが必要なのです。中学校では、やさしい英語を使って、読まれた英語を聞き取れること、自分の言いたいことをやさしい英語を使って表現できること、また読まれた英文の内容をつかむことができることを目標に勉強するのです。学校のテストも、入学試験もその目標にあわせて出題されるのです。

#### 1 授業の受け方

- 授業で聴くする覚悟で集中して学習する。
- 声を出して発音し、単語等は声で覚えてもらう。
- 自分から進んで英語で対話したり、発音したりする。
- 何を学ぶのか、何を覚えればよいのか、ポイントをつかみノートを取る。
- 何が分からないのかを知り、質問したりして解決してしまおう。

#### 2 どんなことができればいいの

- 読むこと
  - ・1年生—教科書と教材をしっかりと読むこと
  - ・2年生—教科書の内容を理解することができる。
  - 聞くこと
    - ・1年生—簡単な英文を聞いて理解することができる。
    - ・2年生—100語程度の英文を聞くことができる。
    - 書くこと
      - ・1年生—基礎的な単語を書き取ることができる。
      - ・2年生—100語程度の英文を書き取ることができる。
      - ・3年生—200語程度の英文を書き取ることができる。
      - 話すこと
        - ・1年生—簡単な会話をすることができる。
        - ・2年生—現在、過去、未来を使い分けて
        - ・3年生—自由に対話できる

### 英語科授業用ノートの作り方(例)

Unit 6 P. 50 October 21st, Friday  
 1日付、ユニット、ページ等を書く。

目標文 I like Japan.  
 Becky likes Japan.  
 目標文を書く。意味が必要な場合には、意味を書く。

3人称単数現在形のSのつけかた  
 を説明しよう。  
 今日のためてを書く。

3単数のSについて詳しく調べよう。  
 自分のためてを書く。

①あつうはSをつける  
 play → plays  
 ②動詞がchで終わるとき  
 teach → teaches  
 ③子音+oの時、yをiに変えてe  
 study → studies

宿書事項、調べて分かったこと、疑問を聞いて分かったこと、友達の意見を聞いて分かったことなどを書く。

このページは、3人称単数現在の文が大半なので、3人称単数現在の文を抜き出し、sにアンダーラインを引く。意味が必要な場合は、意味も書く。

She lives in Australia.  
 She likes Japan very much.  
 She speaks Japanese well.

sister (姉妹、姉、妹) sister sister sister  
 brother (兄弟、兄、弟) brother brother brother  
 live (s) (住んでいる) live live live  
 in (・・・の中に) in in in

大宇の単語練習をする。

### 英語科家庭学習の進め方

◎ 英語は短時間で良いから毎日学習することが大事!!

#### 1 予習としては

- 毎日、声を出して本文を読む。→スラスラ読めるようにする。

#### 2 復習としては

- 買った単語を書いて練習する。→見ないで書けるようにする。
- 毎日、声を出して本文を読む。→できれば暗誦できるようにする。
- 本文をできるだけ見ないで書く練習をする。
- ワークブックをノートにする。  
 答えを書き取って英文を全文書く→解答する→まちがったところはワークに赤字をつける。後日、赤字をもう一度やる。

#### 3 発展的な取り組みとしては

- 買ったところは暗誦できるようにする。→対話するときに活用できる。
- 暗誦した文は暗写できるまで練習する。
- テレビ・ラジオ等を通して学習する機会をもつ。
- できるだけ英語で話す機会を設ける。
- 自分について買った単語を使って文を書いたりしてみる。
- ワークブックを使ってできないところを見つけて練習する。

### 英語科家庭学習用ノートの作り方(例)

Unit 6 P. 50 October 20 Th, Thursday  
 1日付

目標文 I like Japan. (私は、日本が好きです。)  
 Becky likes Japan. (ベッキーは、日本が好きです。)

覚えていい語句  
 sister (姉妹、姉、妹)  
 brother (兄弟、兄、弟)  
 live (s) (住んでいる)  
 in (・・・の中に)  
 Japan (日本)  
 well (上手に)

教科書の後ろにある WORD LISTで、覚えていい語句の意味を調べる。

単語練習  
 sister sister sister sister sister  
 brother brother brother brother brother  
 live live live live live  
 大宇の単語を5回以上書いて練習する。

ワークの問題をやる。  
 ワークの右側のページの問題などをやるとよい。

テレビ・ラジオ英会話のキーセンテンスを書く。  
 英会話の番組も積極的に見よう。

1～3年生それぞれの目標を明記。生徒に到達度をイメージさせる

【家庭学習用】  
 英語の家庭学習のポイントと、予習・復習の内容を明記。また、学力上位層を念頭に、発展的な学習の取り組み例を紹介している

\*学校資料をそのまま掲載



「学力保障」のために、移行期間の今できること

第4回

# 意欲を引き出す「家庭学習」指導

「自分探し（キャリア）」「北中楽校」の3項目についての夢や目標を、学期単位や月単位（学年によって異なる）で書き込み、「自分探しの記録」には、毎日の家庭学習や生活についての記録を書き込む。

これらのねらいは、自分の良い所を自分で認める機会をつくと共に、生徒が「自分で目標を設定し、その目標を実現するための計画を立て、実際に取り組む、というサイクルを習慣化させることだ。自己肯定感の低い生徒や学力下位層の生徒を強く意識している。

例えば、「自分探しシート」の「学び」の項目に「実力テストで合計400点以上を常

げが必要ではないか」と考えた。そこで、08年度に始めたのが、学習記録を毎日つけさせる取り組み「約束学習」だ。教務主任の川崎博文先生は次のように話す。

『約束学習』では、生徒がその日に勉強しようと思っっている家庭学習の内容をシートに書き込み、毎朝、学級担任に提出します。生徒が担任と『この日はちゃんと家でこの勉強をします』という約束を交わすわけです。最終的な目標は、生徒が自主的に家庭学習に取り組むことですが、家庭学習の習慣を身に付けさせるために約束することで、意図的に机に向かわせることが必要だと考えました』

10年度は、「約束学習」に代わり、「自分探しシート」と「自分探しの記録」（図2）を取り入れた。「自分探しシート」には、「学び」「自分探し（キャリア）」「北中楽校」の3項目についての夢や目標を、学期単位や月単位（学年によって異なる）で書き込み、「自分探しの記録」には、毎日の家庭学習や生活についての記録を書き込む。

図3 「テスト学習計画表」

日	科目	学習時間	学習内容	達成時間	自己評価
1.1	国語(現代文)	4	理科のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
1.6	数学(証明)	4	証明の書き方を先生から教わった。練習問題を解いて、自信が持てた。	4	A
1.7	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
1.8	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
1.9	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.0	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.1	国語(現代文)	5	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	B
2.2	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.3	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.4	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.5	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	B
2.6	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.7	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
2.8	国語(現代文)	5	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	B
2.9	国語(現代文)	4	国語のプリントを整理して見直しを始めた。自分ではできているところを、先生に確認して、先生からアドバイスをもらった。	4	A
合計					A

定期テストの2週間前から、毎日の家庭学習時間と内容、自己評価を書き、担任に提出する。学級担任、教科担任のいずれかがコメントを書いて返却。生徒の努力を認めるようなコメントを書くようにしている

\*学校資料をそのまま掲載

図2 「自分探しの記録」

日	学習した教科とその内容	自分探しの日記	担任からのメッセージ
6月	理科(この間まちがえた所) 数学(証明)	夕方、ぼけーとしていたら、6時過ぎに3時限、4時限、5時限まで30分休みの	朝晩は、しっかり勉強して、7時くらいまで勉強して
7日	国語(プリント) 理科(細胞) 社会(政治・公民)	夕方に理科のプリントをやり直した。細胞の図がわからなかった。	10月まで、理科のプリントをやり直して
8日	国語(プリント) 社会(ワフ) 英語(聴解)	今日の理科のプリントをやり直した。細胞の図がわからなかった。	理科のプリントをやり直して、10月まで勉強して
9日	国語(プリント) 理科(電圧とワフ) 社会(ワフ) 英語(作文の練習)	理科の結果をみて、電圧の計算がわからなかった。理科のプリントをやり直した。	今日の理科のプリントをやり直して、10月まで勉強して
10日	数学 理科(電圧) 社会	理科のプリントをやり直した。電圧の計算がわからなかった。	理科のプリントをやり直して、10月まで勉強して
11日	国語(プリント) 英語(行外のこと)	今日は国語のプリントをやり直した。英語の行外のことについて、わからなかった。	国語のプリントをやり直して、10月まで勉強して
12日	数学(2次方程式) 理科(1次関数のグラフ) 英語(長文)	今日は数学の2次方程式をやり直した。理科の1次関数のグラフをやり直した。	目標は、10月まで勉強して、11月まで勉強して

今日の発見！  
今日は、秋の景色がきれいだった。発見するようになった。朝晩は、しっかりと勉強して

9/13日 国語(古典) 家へ帰ったら 秋の景色がきれいだった。発見するようになった。朝晩は、しっかりと勉強して

家庭学習の内容と日記を書く欄があり、生徒が1日を思い返して反省したり次への意欲が持てるようにしている。学年担当がコメントを書いて返却。前向きなコメントを心掛けると共に、複数の教師が見ていることを伝えていく

\*学校資料をそのまま掲載

## 学級担任と教科担任が 共に家庭学習指導にかかわる

に取れるようにします」という目標を書いた生徒は、その目標を意識しながら毎日の家庭学習に取り組むようになる。そして、毎日の家庭学習の結果を「自分探しの記録」に書き込むことによって、「今日1日、自分は目標達成に近づく勉強をこれだけやった」ということを自己確認できるようになる。「自分探しの記録」も、「約束学習」と同じように学級担任に提出することが義務付けられているため、生徒を家庭学習に向かわせるための仕組みとしても機能している。

「家庭学習習慣が身に付いていない生徒の中には、『自分探しの記録』を提出しながらない生徒がいます。しかし、生徒には昼休みなどを使って、必ず書いて提出させるようにしています。書くことによって『やはり家でも学習しなければ』という意識を生徒に持つてほしいからです。そして、『担任からのメッセージ』の欄には、出来る限り前向きなコメントを書くように心掛けています。小さな努力であっても、その努力を認めることによって、生徒の達成感や自信を育んでいきたいと思えます」（浅野先生）

また、定期テストの2週間前からは、テスト勉強として何をしているのかを記録させ、毎日提出させている（P.17図3）。学習時間と学習内容を書くことで、1日を振り返り、自己評価させる場面をつくることをねらいとしている。

「学び方の手引」と「自分探しの記録」は、学級担任と教科担任が連携しながら、きめ細かな指導を生徒に行っていく上でも不可欠なものとなっている。川崎先生はその成果を次のように話す。

「『自分探しの記録』をチェックするのは、学級担任の役割です。この記録を読むことによって、学級担任は生徒の家庭学習の状況の確につかむことが出来ます。学習内容が偏っている時などには、『この教科については、もっとこんな勉強をしてみたらどうか』といったアドバイスをしますが、このとき役に立つのが『学び方の手引』です。自分の担当教科以外についても、『学び方の手引』を参考にして、生徒に具体的に指導することが出来ます」

また、「学び方の手引」は、通常の宿題に加えて、生徒が自主的に教科や学習内容を決めて勉強する「自主ノート」をチェックする時にも役立っている。例えば、2年生には週1回のノート提出を義務付けているが、「自分探しの記録」と同様に「学び方の手引」を基にして、ノートのまとめ方に問題があったり、学習内容に偏りがなかったかを確認しながら、学級担任が生徒に指導している。生徒の家庭

学習の様子は教科担任とも随時共有し、宿題の分量を調整することもあるという。

このように、同校では「学び方の手引」と、「自分探しシート」「自分探しの記録」が、家庭学習指導の両輪となっている。「学び方の手引」には学習内容や学習方法が書かれていて、その教科で何をどのように取り組めばいいのかをまとめている。「自分探しシート」や「自分探しの記録」は、生徒を家庭学習に向かわせるための意識付けと習慣付けの役割を果たしている。これらのプロセスに教科担任と学級担任がそれぞれかわることで、家庭学習指導の効果を更に高めている。

今後は、学び合いの授業の質と家庭学習の意欲の両方を更に高めることが課題だ。その一案として、授業中に家庭学習の仕方を学び合うことも検討中だという。

「これまでも、『先輩はこんなふうに取り組んでいたよ』と、卒業生の『自主ノート』を見本として生徒に見せることがありました。特に、学力下位層の生徒にとっては、実物を見た方が自分は何をすればいいのか、イメージが湧きやすいからです。そこで、授業中にクラスメートのノートを見本として見せ合ったり、より良いノートづくりの方法をグループで考えさせたりすれば、教師や先輩ではなく、より身近な友だちが手本となり、学び合いが更に深まるのではないかと考えています」（川崎先生）

## 意欲を引き出す「家庭学習」指導

### 自校化の視点

# 手引など具体的なツールを使った「つながる」指導



日本女子大人間社会学部教授  
教職教育開発センター所長  
吉崎 静夫  
Yoshizaki Shizuo

### ◎取り入れたい考え方 授業と家庭学習のつながりを教える

北中学校では、学習方法を教え、学習を振り返らせて、支援するという流れを、手引やシートなどのツールを用いて行い、学習習慣の定着と学力の底上げ、学習意欲の向上を図っています。特長は次の5点です。

- ①「学び方の手引」で授業と家庭学習のつながりを意識―「授業用」と「家庭学習用」それぞれにおいて、両方がつながっていることを具体例で示しています。
- ②家庭学習の目標の具体化・明確化と振り返り―「自分探しシート」「自分探しの記録」により、目の前の学習を生徒自身に意味付けさせ、具体的な目標を持たせています。
- ③短期的な目標を達成するための家庭学習を意欲―「テスト学習計画表」により、普段の学習とは別に、集中して学習する時期の必要

性と具体的な方法を意識させています。

- ④個人差への配慮―学力上位層には発展課題にも取り組ませ、下位層には確実に予習復習をさせるなど、個の視点を盛り込んでいます。
- ⑤生徒とのコミュニケーション―生徒が記入した内容に、担任がコメントを書いて意欲を喚起しています。生徒の頑張りを褒めている点と、気候の話など学習以外の話題で「息抜き」させている点がポイントです。

同校の取り組みは「つながる」指導と言えます。授業と家庭学習、教師と生徒、教科間、学級担任と教科担任。学校全体で生徒を学習に向かわせようとしている様子がうかがえます。私は「学び方の手引」作成の初期段階で同校とかわかりましたが、当時の考えはそのままに、校長先生のリーダーシップの下、教師一丸となって指導を進化させています。

### ◎新年度までに出来ること 課題を洗い出し、原因を考える

2010年12月発表のPISA2009の結果によると、全体的なスコアは下げ止まり傾向が見られるものの、上位と下位の差は拡

大しています。家庭学習を「家庭任せの学習」にしているのは、すべての生徒の学力を高めることは出来ません。宿題を出しつ放しにせず、授業でその内容を取り上げ、提出物は確認する。その際、担任以外の先生にも協力を仰ぐなど、学年全体で学級を見るのが重要です。学力が高いとされる自治体は、家庭学習時間がひとときわ長いわけではありません。異なるのは、授業と家庭学習がつながるような学び方を丁寧に指導している点です。先生の負担は大きいかもしれませんが、学び方をチェックして家庭の様子が把握できれば、生徒指導面でも効果が期待できます。

年度末は、学校全体で1年間の学習指導の成果を振り返るのによい時期です。各種学力調査の結果を基に今一度、指導の課題と原因を考えてみてはどうでしょう。その原因は授業だけでなく家庭学習にもあるはず。原因探しには「自分探しの記録」が役立ちます。同校のような詳細なものでなくても、生徒に「今回の定期テストの学習を振り返ってどうだったか」と聞くだけでもよいのです。特に下位層がどの教科でどのようにつまずいたり困ったりしているのかを、教師だけでなく、生徒自身が把握できる手掛かりになります。

よしざき・しずお 九州大大学院博士課程満期退学。大坂大から学術博士の学位を取得。専門は教育工学、教育方法学。長年、小・中学校の授業づくりを支援。主書に『事例から学ぶ 活用型学力が育つ授業デザイン』（ぎょうせい）など。